金星太陽面経過観測記念碑建設について

森　久　保　　茂*

昭和25年12月，神田　茂先生より，明治7年の金星太陽面経過の観測地跡が横浜の野毛山にあるので見てくる様にと命ぜられた．当時私は横浜にある神奈川県衛生研究所に勤務していたので見に行った．そして宮崎町39番地横内俊太氏（現在は大森達雄氏）方の庭の一隅に当時使用した台石と云われるものの有るのを見せてもらった．台石は庭内に大切に保存されているとは云え，このままで永久に保存されるかどうかは疑問であったが戦後間もない当時としては何の術も考えられず，その後忘れるともなく過していた．（本誌第 44 巻第5号）

昭和 46 年 1～3 月号「天界」に佐藤利男氏がこの件に関する古文書の調査をされた論文が掲載され，私は再びこの「台石」のことを思いうかべた．

次いで昭和48年5月13日 NHK テレビでこのことに関する放映があり，神戸と長崎には当時よりフランス隊の建てた碑のあることを知り，この台石の保存には記念碑の設立が必要と考え，直ちに神田　茂先生に，このことを糺した処，5月21日附のお手紙で「碑を建てるべく運動する様に」とのお返事を戴いた．なおこれに関する斉藤国治先生の詳細な論文のあることを知らされた．

そこで先ず佐藤利男氏宛に手紙を出した処，同氏は現在沖縄に居られ直接この計画には参加出来なくて残念とのお返事だったが，関係官庁への交渉等につき示唆があった．次いで斉藤国治先生に手紙にて御意見を伺った処，9月4日の第1信にて来年は100年の記念の年に当るので記念碑がそれまでに完成すれば大変意義があると思うとの御返事であった．そして論文（斉藤国治・篠沢志津代著「金星の日面経過について，特に明治7年12月9日日本に於ける観測についての調査」—東京天文台報第 16 巻第1冊及び第2冊—昭和47年，48年）の御恵与を受けた．その後両三回御意見を伺ったが官庁との交渉はかなり難しいとの御意向で，一応御教示に従ってある方面に間接的に横浜市の意向を打診したが返事は悲観的であった．そこで私は官庁に頼ることを止めて天文関係者の拠金を得て碑を建てることを考える様になった．

昭和48年12月の末，私はこの考えを同好の親友，箕輪敏行君に打開け協力を求めた．そして昭和 49 年早々には共に斉藤先生を訪ね御意見を伺う積りであったが，私の都合がつかず，2月になって箕輪君1人で斉藤先生を訪ね御論文を戴いて帰った．

箕輪君は当時川崎市立旭町小学校の校長であった．ある日同校 PTA の会長である神奈川県会議員の吉浜照治氏が所用で校長室に箕輪君を訪ね，机上に斉藤先生の論文を見つけた．この本は赤色の表紙に英語でタイトルが書かれている．吉浜氏は箕輪君に「先生も英語がよめるの？」とたずねた．箕輪君は「少しは読める——がこの本の内容は日本語でね」と．この冗談まじりの会話がなかったら，この記念碑は日の目を見ることが出来なかったかも知れない．箕輪君は吉浜氏に論文の内容を語り，我々が今その記念碑を建てるべく運動を始めた処だと訴えた．吉浜氏はその重要性を認め強く共感し，直ちに県会に計ることを約束した．

吉浜氏は3月の県会にこの件を提案，津田知事の承認を得ることが出来た．誠に吉浜氏の御助力は忘れることの出来ないものである．

3月13日私と箕輪君それに秦　茂先生（斉藤先生の代理）は吉浜氏の案内にて神奈川県庁を訪れ，社会教育部長に面会，記念碑設立のため県及び横浜市より助成金を出すので，設立期成会を作り計画書及び予算書を至急提出する様に要請された．私達は馴れぬこととて聊か戸惑ったが，先ず設立期成会の役員の人選を考えた．そして県下の天文関係の諸団体より広く人選する必要があると思い，日本天文学会，日本天文研究会，川崎天文同好会，横浜天文研究会，神奈川地学会等に所属の会員 14 名を選び3月17日第1回役員会を県立青少年センターに於いて開催，会長は私が引受け，箕輪君には事務局長として活動の中心になってもらった．又，顧問には神田茂，斉藤国治，朝比奈貞一，廣瀬秀雄，村山定男，佐々木徳治の諸先生にお願いした．神田先生は最もこの記念碑の完成を待ち望んで居られたが，その完成を見ず7月29日に逝去されたことは痛恨の極みである．

かくして私達の活動が始められた．4月4日私と箕輪君は吉浜氏の案内にて横浜市役所を訪れ，市社会教育部長に面会し，市の意向を聞く．其の後夏から秋にかけて何回か県及び市を訪れ，また役員会を開き協議と準備を進めた．云うまでもなく役員達は皆職業があり，学校の教職員或は会社員などであるから，度々の会合には困難が伴った．私も屢々「本日休診」の札を玄関に掲げて留守にせざるを得なかった．

8月25日斉藤先生を三鷹の御宅に私と内野，重久　秦先生の4人で訪問，碑文，碑の型，記念誌の内容等につき学問的指導を戴き，記念誌のために改めて長文の論文

* 金星の太陽面経過観測碑設立期成会長

を書いて戴くこととなった．

石碑は県の紹介にて真鶴の小沢石材店に依頼，9月3日以降再三訪ねて，石材は同地産の本小松石を使用，幅約 180 cm，高さ約 125 cm，厚さ約 35 cm，重さ約3トンの略々平行四辺形の自然石を使用することとする．その後碑面上の文字の配置，書体などの指図を行い，11月末完成，現地据付は12月3日より始め6日に完了した．

小沢石材店主は好意的良心的に作業を進めてくれた．

記念誌の編集には主として重久，尾形両君が当ったが，まず神奈川県史料館にての調査で当時の外交関係の古文書や観測隊の使用した土地家屋の借用願の写しなど貴重な史料がみつかった．編集で最も困ったのは祝辞の原稿が執筆者から仲々届かず期限に間に合うかどうか気をもんだ．結局「金星過日」という表題のもとに 36 頁 2000 部が完成し，当日関係各位に配られた．

尾形君は古文書中の観測地点に疑問を持ち，改めて登記所に於いて古い地籍調査を行い，斉藤先生も共に現地を再調査され，メキシコ隊の測定した天文経緯度に鉛直線偏差を補正した測地学的経緯度を算出して戴き，これを碑文に刻んだ．

斉藤先生の御紹介にて除幕式当日メキシコ大使の出席を求めるべく 11 月6日斉藤先生と共に私と箕輪君はメキシコ大使館を訪れ，一等書記官のホセ・ボルホン氏に面会した．同氏は100年前のメキシコ観測隊の業績をよく承知して居られ，我々の要請は直ちに理解された．

記念碑の設立場所をどこにするかについて種々の意見があったが，大森氏方では場所が狭い上に後々見学者に悩まされる虞れもあるので遠慮し，結局現地より約 300 m 北にある県立青少年センターの構内が選ばれた．ここは青少年の教育の場である上に望遠鏡，プラネタリウム等の天文施設もあるので格好な場所である．県及び市をして青少年センター当局の意向を伺った処，極めて順調に承知してもらえた．また第1観測地点の大森氏方と第2観測地点のフェリス女学院構内には後日，小さな標石を置くこととし準備した．

除幕式当日の記念講演は斉藤先生にお願いしてお受け戴いた上，リー・ハウチンス博士を紹介して下された．

この方は米国ジョージタウン大学の歴史学の教授で特に維新当時の日米関係について研究されて屢々日本を訪れて居り，今回も来日して講演したい意向の由である．

除幕式の前日 12 月7日には午後より青少年センターに役員は勿論，役割を割当てられた横浜天文研究会，川崎天文同好会，大和天文同好会等の会員約 20 名が集り午後8時までかかって会場の準備を行った．こうした準備，役割，式次第，賓客の接待は勿論，これまでの役員会の日程，その内容，或は招待状の発送などは全て内野君の綿密な計画のもとに行われた．除幕式は9日に行うべきであるが，日曜日を選んで前日の8日とした．

8日の除幕式当日は幸い晴れて穏かな1日であった．ちょうど100年前のその日がそうであった様に．私達は8時半までに会場に集って準備を整え，10 時 10 分，青少年センターの入口に道路に面して建てられ，白い布で覆われた記念碑の前で除幕式は始められた．

先ず私の挨拶の後，県知事（代理教育長）横浜市長（代理社会教育部長）大森氏のお孫さんで小学校1年生の高崎武洋君，水路部の進士先生，メキシコ大使の5人の方に紐を引いて戴き記念碑を覆っていた白布は除かれ盛んな相手が起った．これより直ちに会場を室内に移し，箕輪君の経過報告に続いて来賓の県知事（代理）横浜市長（代理）メキシコ大使マヌエル・アルバーレス・ルーナ氏，廣瀬秀雄先生，朝比奈貞一先生，村山定男先生より祝辞を戴いた．

メキシコ大使は100年前のこの観測隊の派遣は単なる科学調査団に終らず，後に隊長フランシスコ・ディアスコバルビアスが商工大臣になったとき，日本人を高く評価し，明治 14 年メキシコは日本と友好通商条約を結ぶに至った．この様に意義深い観測隊の記念碑が建てられたことが更に今後の両国の交流を深めることに役立つことを期待し，メキシコ国を代表して謝辞を述べるとのことであった．

大森氏と小沢石材店主には感謝状が贈られた．過去5回世界各地で日食の観測に成功した佐藤精一氏より1970年のメキシコ日食の際のコロナの写真がメキシコ大使に贈られた．また川崎天文同好会の会員，神保君は自作のトランジスター時計を「金星時計」と称して青少年センターに贈った．

午前11時30分除幕式を終り，同11時45分より同所に於いて記念講演を開催．先ず斉藤先生の「科学に於ける黒船100年前の金星太陽面経過観測，特に横浜に於けるメキシコ隊について」と題するお話を伺った．先生は金星の太陽面経過の解説をやさしく述べられた後，主として横浜に於けるメキシコ隊の活躍についてスライドを使って語られた．次いでハウチンス博士はスライドを提供され，斉藤先生に解説を求められた．内容は主としてアメリカ観測隊に関するもので，当時使用した望遠鏡や隊長ダビッドソンの肖像など珍らしいものがあった．

講演は午後0時30分終了した．来会者は約200名であった．

除幕式が無事終って安堵した私達は改めて碑の前に立った．僅か100年前には太陽視差を計測すると云う最も原始的な観測を世界の諸大国が国力をかけて行った．今では人類は月面に足跡を印している．何たる進歩であろうか．そして更に100年後，この碑はどんな世界を背景にして，ここに立っていることであろうか．